

(翻刻)

(一七七四)
安永三歳午年三月、御宮上葺、此年、安嶋浦ニおいて

大役病時化申、諸人多方死候也、凡一日ニ四五人程死候なりシ、

儲又、去年之十月廿三日夜中、此浦大火有、家数

式百斗焼ケ申也、安と浦打続不仕合之段、

(棟)
東梁

前代未もん之事也、一向船乗稼(マ)く不申

善兵衛

海船一艘も立不申、末代迄申伝也、当り

与三兵衛

珍しき事故、一書申置也。且又家祢(屋根)や

四郎右衛門

与三郎

金七

(現代語訳(本文のみ))

安永三年(一七七四)三月、神社の屋根を葺き替える。

今年、安島浦で疫病が蔓延して、たくさんの方が亡くなった。

それは一日に四・五人の方が亡くなるという大変なものだった。

それより少し前、去年の一月二三日夜には、大火があった。

その火事では、二〇〇もの家が焼けてしまった。

安島浦で打ち続いたこのような不幸は、前代未聞のことだ。

船乗りたちも稼ぎが減って、船が一艘もなりたたなくなった。

このことを後の世にも語り継ぐ。

とても珍しいことなので、ここに書き残す。